



東光寺だより

令和六年七月一日 発行

第二十六号

静岡市清水区谷田

曹洞宗 谷田山東光寺

お寺は最高のパワースポット

今年の春彼岸会法要後に、法幢寺（葵区長沼）の秋田弘隆師に木造本堂の意味についてお話いただきました。

【秋田老師の法話から】

皆さん、この本堂が木造で建てられた理由が分かれますか。日本は何千年の間、木で神社仏閣を造ってきました。つい最近ですら鉄筋コンクリート造、鉄骨造というのは。古来、神社仏閣は木というのは決まっています。その理由は湿度です。まずは湿度対策。やはり梅雨時はものすごく雨が降ります。この木というのは自然の湿度調整装置になっているのです。木というのは結露しないです。湿度が多いときは吸ってくれます。多分、皆さんのお宅も木だと吸ってくれていると思います。木は呼吸をしています。秋の乾燥した時期には木は湿気を吐き出してくれます。だから木は自然の湿度調整ができるすごい優れものなんです。

奈良の法隆寺や正倉院は千二百年もの長い間、木で保っています。正倉院は校倉造りと言って三角形の木を組んで造ってあるのですが、あれは湿度が高い時には閉まって乾燥すると開くようになっていきます。現在も宝物がいっぱい保存されていますけど、そのような造りだから保存可能なんです。

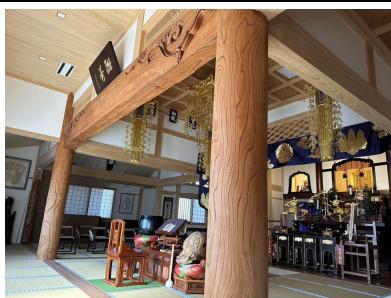


木というのは本当に素晴らしいものです。ただ一つ火災が心配です。ですから、十分火には気をつけていただきます。もう一つは東洋思想の根幹にあります。宇宙と一体になって生きるということなんです。

それを『天人合一』と言います。天と人は宇宙と一体になって大自然と一体になって生きるということです。大地人という言葉もあります。大河ドラマのタイトルにもなりましたが、天と地の間に人は住むと幸せですよという意味であり、大自然と調和して生きるという考え方が東洋思想の根幹にあります。仏教伝来する前から日本には古神道というものがありました。それはすべてのものに神が宿するという思想です。木にも山にも水にも木魚にも鐘にも皆さんの魂にも、すべてに神様が宿するという思想です。八百万の神っていましたけど、そうやって天に向かって、また内神様という自分の心魂に向かって常に祈り、大自然の一つになるという考え方は。

実は本堂の丸柱、これがその役目をしておりまして。天地のエネルギーをつなぐという役目があります。天と地のエネルギーを皆さんのお宅にも取り込んだのが大黒柱です。昔は一階と二階を繋ぐドーンと太い柱が床の間にあたり家の中心にあたりたりしたわけです。現代はチョキンと切られたり化粧板になったりして大黒柱自体がなくなっていることが多いです。神社仏閣は今なおその伝統を引き継いでいるわけです。なぜかと言うと天のエネルギー、地のエネルギーを得ることによってこの場所を最高の気場にするんです。元気の場の場、今風の言葉で言えばパワースポットですね。その中に住むと人々は健康で健やかに元気で生きていけますという先人たちの知恵なんです。

元気の氣を体感できている人はいますか。人の頭にはつむじが回っていますね。指紋も渦巻いていますよ。体の中のDNAも渦巻いています。螺旋状にみんな氣を受けているんです。でも、現代人はその感覚を忘れてしまっています。縄文時代の人はそれを毎日体感しながら生きていました。だから縄文時代は一万五千年もの長い期間、平和な時代だったんです。いくさ、戦いがなかった。縄文人の遺骨を見



ても一切殺傷痕がないんです。それが弥生時代になると傷だらけです。なぜかと言ったらオラの田んぼオラの水、田畑を奪い合う争いが起こるわけです。

縄文時代は実は女性中心の社会でした。縄文は縄の文様のことで、縄はこの宇宙の螺旋のエネルギーのことです。だから皆さんの頭のつむじも回っているし指紋も回っているわけです。皆さんのいる東光寺の本堂の中はもうエネルギーで充滿しています。

本堂の丸柱どちらに回っているかわかりますか。北東の柱は左巻きに回っています。南東の柱は右に、南西の左に、そして北西の柱は右に回っている。交互に陰、陽、陰、陽に回っている。すべてはそうなんです。この本堂の左側は左に回っていて右側は右に回っています。時計回りなんです。この中心（内陣：仏殿）は八の字に回っています。これが氣の法則です。この法則は昔からありまして、本堂の中に入ると多分皆さん眠たくなったり、元気がなくなったりします。邪気が抜けて調子が良くなるからです。お寺さんにお参りした後にすごく健やかだったり、気持ちよくなったりする方がいると思います。森の中にいるのと一緒なんです。この樫の巨木、檜、杉の木等、木造本堂は木に囲まれています。だからものすごいパワースポットの中に皆さんいるわけです。本堂に東光寺の皆さん幸せです。ここに来ると元氣になります。邪気が抜けて良いエネルギーをもらえます。お寺は邪気抜きをして、そしてエネルギーパワーを頂く装置になっているんです。

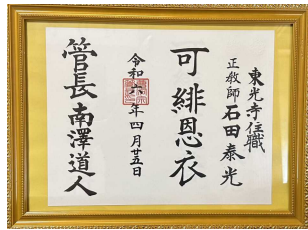
当山住職 緋恩衣の被着認可

ひおんえ ひちやくにんか

令和六年四月二十五日付で、当山八世泰光住職が、現曹洞宗管長である永平寺八十世貫首、南澤道人禪師から緋恩衣の被着を認可されました。

緋恩衣認可とは、晋山結制を行った僧侶の中から、宗務活動、布教活動、教育活動、社会事業等に特に顕著な功労がある僧侶が、曹洞宗経歴特別審査会で審査され選考される服制資格です。

認可されると緋恩衣（緋衣に色筋が入った法衣）、立帽子、大掛絡（大きな格子）を被着することができ、当山住職として資格衣に恥じないよう日々の法要、檀務を誠心誠意、勤めて参ります。



東光寺のお葬式・法事

東光寺の檀信徒様の葬儀は、新本堂の落成により利便性がよくなり車椅子の方でもそのまま参列していただけます。希望すれば本葬儀で梅花講の皆様が御詠歌をお唱えして故人様をお送りできます。

また、お亡くなりになって、そのままお寺にお連れする体制も整いました。お連れした故人様は位牌堂に安置され臨終誦経（枕経）が行われます。

故人様は、お通夜の日まで御開山様ご先祖様を祀る位牌堂で見守られながら過ごされ、納棺後は棺を須弥壇前に安置し、本堂で通夜法要・本葬儀が行われます。

法事もコロナ禍前のように、ご親族をお呼びして行うお宅様、設齋（食事）を移動が楽な客殿で行うお宅様が増えてきています。

東光寺梅花講 特別講表彰



五月二十三日に大本山總持寺で開催された梅花流創立七十周年記念奉詠大会で過去十年間に十名以上が入講した講として東光寺講が特別講表彰を受けました。

梅花講は毎月一回、全体おけいこを行っています。随時、新しいお仲間の入講も受け付けております。

第三回研修旅行 修禅寺参拝

四月二十五日、五年ぶりに研修旅行を開催致しました。晋山式に続いて今回も前日の雨天から一転、快晴に恵まれました。檀信徒様やその方のご友人、総勢二十三名の方が参加してくださいました。

伊豆修善寺の福地山修禅寺様では、御住職が直々に寺の縁起についてお話ししてくださいました。

諸堂、宝物館拝観の後、伊豆半島の歴史を学べるジオリアを見学し、昼食は沼津みなどで海鮮料理をいただきました。最後に沼津御用邸を拝観し日没前に帰路に着きました。



参加者様からは「どこもみんな良かった」「また参加したい」という感想をいただきました。

次回（今年七年四月開催予定）は、好評だった袋井可睡齋の参拝と精進料理、そして、東光寺の建設工事を担当した宮大工、飛鳥工務店が手掛けた法多山諸堂参り及び工場見学を予定しております。

地域の子供たちと



五月二十二日、地元の東豊田中学校の一年生が総合的な学習（地域探訪）の授業の一環として当寺で参禅体験を行いました。

読経、坐禅、行茶を体験した後、子供たちからは多くの質問が出されました。学校が夏休みとなる八月には、清水谷田子ども会主催の「禅のつどい」も開催されます。

未来を築く地元の子供たちにとって、東光寺が親しみやすく、生き方を学べる場所でありたいと願っております。

山門大施食会法要

今年の施食会は、七月二十九日（月）午前十時から行われます。

昔は餓鬼に施すから「おせがき」といいました。物惜しみをして、他に施すことをしない者が墜ちるとされる苦の世界で飢えに苦しんでいるのが餓鬼です。施食会は、この餓鬼たちにも飲食を施し、法（お経）を説き、成仏できるようにする事を目的とした法要です。縁のあるお寺から多くの僧侶が集まり、その法力で餓鬼たちを成仏させる事を祈願する年に一度の大法要です。

その功德、御利益は、皆様のご先祖様やご自身身にも回向されます。

今夏も酷暑が心配ですが、新本堂は空調整備も整い、椅子席も十分に確保できるようにいたしました。当日は、護持会総会も併せて開催されます。多くの皆様のご参拝をお待ちしております。